

# 明日 への 話題

## オリンピック を迎えて



公益財団法人 資本市場研究会  
理事長

はやし  
林

まさかず  
正和

皆様明けましておめでとうございます。

本年は、東京オリンピック・パラリンピック大会がいよいよ開催されます。世界的規模の超大型イベントであるだけに、多くの関係者の方々の御苦勞はいかばかりかと拝察されますが、必ずや成功裡に終われると期待しております。

ところで言うまでもありませんが、オリンピック・パラリンピックは単なるスポーツの競技会に終わるものではありません。世界の国々の注目する中で、国を挙げての一大行事ですので、我々の生活、社会の隅々にまで大きな影響を及ぼします。1964年の東京大会時、私は大学1年生でした。大会自体の素晴らしさに感激、興奮したのはもとより、外国選手の運動能力に目を見張ったものですが、大会を契機に日本の国・社会が大きく変わったことに驚きを覚えました。大会と相前後して新幹線、高速道路等の社会資本が次々と整備され、その後の高度成長を通じ、私達の生活も大きく変わりました。人々の意識も世界を視野に入れるようになり、私は、日本も戦後の復興期を終え、先進国の仲間入りを果たしたと誇らしげに思ったものです。こうした変化は1964年大会が一つの起爆剤になったと言えるでしょう。

さて、2020年大会を機に、私達の社会はどのように変化していくのでしょうか。国際環境が激変する中で、人口減少、高齢化が進行する中、私達は多くの課題を抱えております。昨年6月に閣議決定されたいわゆる骨太の方針には、これらに対処すべく広範囲にわたって前向きな各種施策が列挙されており、その着実な実行が期待されます。その結果、私達の生活は一層便利になり、経済・社会は効率化していくでしょう。同時に忘れてならないことは、足元にも注意して持続可能な財政・社会保障制度の確立に向けた着実な歩みを止めないことがあわせて求められます。

また、近年の自然災害の甚大化は、私達も身をもって感じているところですが、これらは温暖化がその一因と言われ、「脱炭素社会」への取組みが喫緊の課題と思われれます。危機意識を新たに海洋国家の国民としてより一層真剣に取り組みたいものです。

なお、今回の大会は、復興五輪との位置づけがなされております。改めて、東日本大震災の被災地の現状と復興に関心をもち続けていきたいと思っております。そして、2020年東京大会が我が国経済社会を力強く創り変え、その後の一層の発展に寄与したと後世に言えるようにしたいものです。